

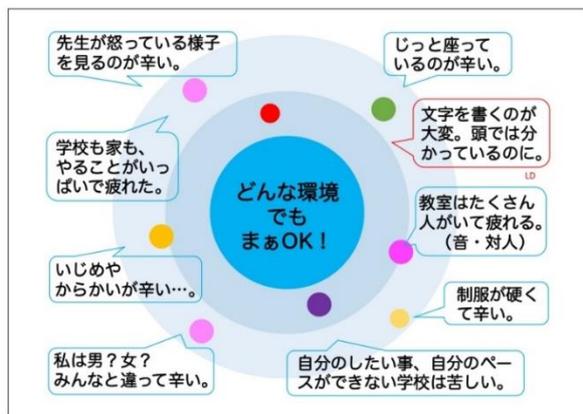
不登校 サポート!

学校になじまない子の理解と支援

○学校に行くのがつらい子どもたちの状況

「行かない!」と元気いっぱいな子どもはそうそういない。たいていの不登校児が、ぎりぎりまで頑張ってエネルギーを使い果たしている状態。体に症状が出る子もいる。

- ・その子の生まれ持った性質(繊細・正義感強い…)
 - ・運(不運の重なり)(担任・クラスメイト・家庭・できごと…)
 - ・学校や社会がより硬くストレスフルに
- 複数の要因が重なる



- ・ストレスフル、余裕のなさ
- ・価値観や受容の狭さ
- ・地域の様々な居場所の減少

学校での円がどんどん狭くなって、環境に敏感な子、心が繊細な子、マイノリティ性質の子が辛くなっている。

○心の回復過程

混乱期→→→低迷期→→→回復期

- 1) その子が希望する過ごし方や場所
- 2) 心境や状況を理解し寄り添う仲間や大人の存在(親、大きくなってくると家の外に)
- 3) 過ごし方や選択によって将来の可能性を狭めない仕組みや社会づくり

安心して過ごす中で、自信を取り戻したり、生き方を模索する時間がとても大切。数年かかることも。子どもと保護者が何重にも支えられた(選択肢のある)環境が必要。

○国(文部科学省)の方針

COCOLOプラン

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。
2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。
3. 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

方針の実現にむけて、仲間と一緒に行政や教育機関などに働きかける方法もある。
つながっていくことが大事

○みんなで話そう



Q&A

Q:学習の遅れが心配

A:小中学校の勉強は高校進学時に取り戻せる部分もある。個別学習塾や家庭教師など、本人が目標をもてた時にサポートしては。それまでは「ちょっとやってみたら？」は我慢して、好きなことを一緒にやったり、親のだらけた姿をみせるのもよいかも。

Q:スマホやタブレットを制限した方がよいか

A:スクリーン系は多くの家庭の悩み。「いつか飽きる」「その中で友人がつくれる」と肯定的な意見もあるが、視聴中は内面の思考が動きにくいという問題もある。スマホ、タブレットのない世界には戻れないし、つらい子ほど手放せない。「10時までにする?」「少し時間へらそうか」など、命令ではなく子どもと相談してルールを決めるとするのが王道だが、うまくいかない場合も多い。ルールが守れなくてもあまり怒らずに、気長にすこしずつ。

生活に支障をきたすほどの依存状態であれば、医療機関の受診が望ましい。その手前であれば親子で葛藤しながら微調整を繰り返していくか。スマホ以外の楽しみがみつかるとういことです。

Q:学校、教育委員会以外の相談先

A:インターネット検索。民間心理士など。

親同士でつながれば、地域密着の情報交換ができるので一番よいと思う。

感想:お母さんの気持を保つことが大事

A:不登校児は、自分のぐちを出せない子も多い。子どもの気持を伝え返したり、お母さん自身のぐちを話して(子どもの事ではなく)、ぐちを言ってもいいということを伝える。一方でお母さん自身が楽しいことをしたり、おしゃべりしたりして気持ちを吐き出すことが大事

意見:ペアレント・メンターという考え方がある。発達障害の子どもを育てた親たちが、現在育てている親たちの相談相手になる。同じような相談場所ができないか。